

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 25 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 5 日 作成

事務事業名	基金管理事務			<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連	
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也
	施策	24	行財政改革の推進	所属課	企画財政課	担当者名	高島 圭二
	基本事業	83	計画的な施策・事業の推進	所属班	財政班	(内線)	1233
				法令根拠	地方自治法第241条 合志市財政調整基金条例ほか各基金条例		

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	5
	1	2	1	7	11110			コスト削減優先度評価結果	5-1

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】
年度間の財源の調整に必要な資金を積み立て、健全な財政運営に資するため、財政調整基金をはじめとする各基金の管理運用を行う。

【業務の流れ】
・基金利子の積立 ・基金の繰替え運用 ・決算剰余金の基金への積立て

【主な予算費目】
基金積立金、利子積立金

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)
20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)	・20年度と同じ ・土地開発基金で所有する土地について現金化する。
・事務事業の概要のとおり実施した。	
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)
	→ ア 年度末基金総額高 千円
	イ 基金の数 基金
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
・基金(現金・土地)	→ ア 財政調整基金年度末残高 千円
	イ 標準財政規模 千円
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
・正しく管理・運用できる。	→ ア 取崩し総額 千円
	イ 積み立て総額 千円
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位)
・健全な財政計画となっている。	→ ア 経常収支比率 %
	イ 実質公債費比率 %

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載)	
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人件費	一般財源	千円	182,256	130,738	12,702	680,995	16,676	12,000		12,000
		(A) 事業費計	千円	182,256	130,738	12,702	680,995	16,676	12,000		12,000
		うち指定経費	千円								
		うち時間外、特殊勤務手当	千円								
		トータルコスト(A)+(B)	千円	182,447	130,997	12,961	681,254	16,935	12,259		12,259
正規職員従事人数	人	3	6	6	6	6	6	6	6		
延べ業務時間	時間	48	65	65	65	65	65	65	65		
(B)人件費計	千円	191	259	259	259	259	259	259	259		

指標	単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度
活動指標	千円 基金	2950392 7	3687914 7	3250000 7	4644766 7	3000000 7	3000000 7	3000000 7	目 標 合 計 数 計 値 画 (22 年 度)
対象指標	千円	1527256	1820886	1263000	2105896	1796022	1848716	1258000	
	千円	9598321	9621404	9600000	10633254	10250000	10350000	10450000	
成果指標	千円	807244	483212	1150131	424144	1030575	200000	208000	
	千円	582256	900734	705896	1380995	366676	279719		
上位成果指標	%	92	87.4	92	93.2	92	92	92	
	%	14.7	15	14.7	14.7	14.7	14.7	14.7	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
・地方自治法第241条により、合併前の町制施行時から実施している。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
・平成20年後半から世界の金融市場は、百年に一度と言われる危機に陥っており、我が国経済についても、世界的な景気後退を受けて、外需に加え、国内需要も停滞し、景気の下降局面が長期化・深刻化するおそれが高まっている。このことから、本市においても市税の増加は到期待できず、セーフティネットである生活保護費等の社会保障費の増加が懸念される。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
・議会から基金の減少を心配する声が聞かれる。

事務事業名	基金管理事務	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	--------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ ・意図の正しく管理・運用することで、基金の増加を図り、年度間で生じる財源の不均衡に対応できることから財政が健全になる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ ・この事務により予期しない収入減や支出増といった、年度間の財源の不均衡を調整したり、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立てて運用することで市の計画的な財政運営ができる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ ・対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ ・行政評価システムの活用で、それぞれの事務事業の必要性、優先度を明確にすることにより、歳出が抑制されれば、基金増加につながる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ ・年度間の財源の不均衡調整や、特定の公共サービスの達成のために活用しており、廃止・休止はできない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ・年度間の財源の不均衡調整や、特定の公共サービスの達成のために活用する事務事業はこれ以外にない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・事業費に計上された額は、基金積み立て金及び利子積立金で削減はできない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ・財政運営の一部であり外部委託はできない。削減余地がない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ・この事務は市の財源調整や、特定の公共サービスに活用する資金の管理を目的としており、市全体が関わっているため公平である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・有効性について、行政評価システムの活用で、それぞれの事務事業の必要性、優先度を明確にすることにより、歳出が抑制されれば、基金が増加し、財政が健全になる。
---	---

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) ・行政評価システム、中期財政計画を踏まえた予算編成を行うことで事業の改善ができる。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持 低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持 低下			
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上		○															
	維持 低下																	

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	9	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	11	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)